

会議録

会議の名称	令和5年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会					
開催日時	令和6年3月25日（月曜日）			開会	午後2時	
				閉会	午後3時40分	
開催場所	東松山市総合会館多目的ホールA					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 各プロジェクト・連絡会議からの報告 (2) 第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係る東松山市地域自立支援協議会の取組について 4 その他					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		0人	
委員出欠状況	会長	朝日 雅也	出	委員	佐藤 美奈	出
	委員	丹羽 彩文	出	委員	矢部 智之	出
	委員	岸澤 進	欠	委員	浅野 聖子	出
	委員	武田 耕典	出	委員	羽鳥 良江	出
	委員	松井 治子	欠	委員	林 俊之	欠
	委員	上野 秀爾	出	委員	小池 千佳	出
	委員	池永 和美	出	委員	長澤 誠	欠
	委員	川上 嘉久	出	委員	森田 暢宏	欠
	委員	恵賀 正治	欠	委員	磯崎 祐子	出
	委員	奥村 一彦	出	委員	須賀 雅之	欠
	委員	若尾 勝己	出	委員	榎本 淳也	欠
	委員	暮松 靖弘	出	委員	富樫 正紀	出
	委員	小西 尊晴	欠	委員	安藤 知佳子	欠
	委員	大石 和夫	出	委員	久保田 慶一	出
	委員	田原 祐己子	出	委員	落合 要之	出
委員	荻野 裕	出	委員	成川 暢彦	出	
各プロジェクト・連絡会議	東松山障害者就労支援センター 木村 孝			東松山市社会福祉協議会 田口 純子		
	西部・比企地域支援センター 南澤 甫			比企生活支援センター 関 和範		
事務局	健康福祉部 田嶋部長			健康福祉部 高荷次長		
	障害者福祉課 荻原副課長			障害者福祉課 小松主査		
	障害者福祉課 金子主任					

次 第	顛 末
<p>1 開会 事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p>	<p>皆様 こんにちは。 本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 私は、本日の司会を担当いたします障害者福祉課の荻原と申します。 どうぞよろしく願いいたします。 それでは、ただ今から「令和5年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会」を開会いたします。 はじめに、本協議会の会長であります朝日会長よりご挨拶いただきます。</p>
<p>2 あいさつ 朝日会長</p> <p>事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p>	<p>— あいさつ —</p> <p>ありがとうございました。 本日の会議の会議録作成にあたり、出席委員2人の方に署名をお願いしたいと存じます。本日の会議録につきましては、矢部委員と武田委員をお願いいたします。後日、会議録ができましたら事務局よりご連絡を申し上げますので御署名をお願いいたします。</p>
<p>3 議事 事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> <p>朝日会長</p> <p>事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> <p>朝日会長</p>	<p>それでは議事に入ります。議事につきましては、東松山市地域自立支援協議会開催要綱により、会長が進行を務めることとなっておりますので、朝日会長よろしく願いいたします。</p> <p>では、しばらくの間、議事を進行してまいりますので、皆様方のご協力よろしく願いいたしたいと思っております。 まず議事に入る前に、確認の事項がございます。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、会議の公開非公開の決定を会に諮って決めることとなっております。公開の場合、傍聴希望者がいらっしゃれば、傍聴いただくこととなります。事務局に確認ですが、今日は傍聴希望者の方はいらっしゃいますか。</p> <p>いらっしゃいません。</p> <p>傍聴者はいらっしゃいませんが、本日の会議は公開の会議といたしま</p>

	して、会議資料や会議録を今回、公表させていただくことにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員一同	— 異議なし —
朝日会長	では、議事に移ります。次第に従って進めてまいります。議事の（１）各プロジェクト連絡会議からの報告につきまして、各プロジェクト・連絡会議から令和５年度の成果等を報告していただきたいと思います。それでは、障害者進路支援連絡会議からお願いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
木村リーダー	— 障害者進路支援連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議」から報告をお願いします。
田口リーダー	— 障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「医療・福祉連携プロジェクト」から報告をお願いします。
南澤リーダー	— 医療・福祉連携プロジェクトについて報告 —
朝日会長	続いて「地域生活支援拠点等連絡会議」から報告をお願いします。
関副リーダー	— 地域生活支援拠点等連絡会議について報告 —
朝日会長	では、最後になりますが「SDGs／合理的配慮推進プロジェクト」から報告をお願いします。
関リーダー	— SDGs／合理的配慮推進プロジェクトについて報告 —
朝日会長	では、ただいま５つのプロジェクト・連絡会議より報告がございました。委員の皆様から何かご質問やご意見があればいただきたいと思います。順次、確認させていただきたいと思います。まずは障害者進路支援連絡会議について、何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。
朝日会長	職業体験で地域内の様々な事業所にご協力をいただいで展開をしてきて、令和５年度は５名が参加されていますが、平成２８年度から始まっているので、ここで体験した人たちが、例えば次の進路に向かっているのではないかなと思うのですが、そういった過去に遡った現状把握という

<p>木村リーダー</p>	<p>か進路先の把握はしているのでしょうか。</p> <p>実際に利用された方のその後の現状については、一度把握をさせていただいたことがあります。</p> <p>3名か4名、利用したことで就職に至ったとお母さん方から感想をいただいたということもありましたが、ただ、これが影響してなのかどうなのかというところまで確認できるものではなく、ただそういったところに繋がったということで、話は聞かせていただいております。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>因果関係として、いろんな要素があると思うのですが、ただこういうプロジェクトで職場体験していただいたことが結果としてどうなのか。どんな働き方に結びついているのかということ把握していくことも連絡会議として重要だと思います。</p>
<p>矢部委員</p>	<p>今後のキャリアデザインフォーラムの対象者を令和6年度以降は市内在住から在学と広げていくというところで、以前からそういう何か、対象者変更の声があったのかと、実際どれぐらいの人数が対象者となるのか、わかれば教えていただきたいと思います。</p>
<p>木村リーダー</p>	<p>例年、本当に少しではありますが、3名ぐらいの方、吉見町ですとか滑川町の保護者の方で、参加できないかという問い合わせが来ております。今年度は2名の方が参加しました。あともう1人の方が当日の飛び入りで、他の市町村の方なのですが参加されました。</p> <p>今年度は滑川町から、こちらのキャリアデザインフォーラムのようなものを、滑川町で実施していただけないかというお話をいただいております。これまでのところ市内在住の方に限定をしていたところがあったので、周知の方もしづらく、もう少し多くの方に見ていただきたいとずっと検討しておりましたので、来年度はもう少し拡大をしていきたいと考えております。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>では2番目で、障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議について、こちらについてはいかがでしょうか。</p> <p>地域の資源を生かし、子育て支援の視点で、みんなで作る児童発達支援センター機能ということで、(仮)ということで展開してきたのですが、今回の報告をもって、(仮)がなくなって正式にこの機能として位置づけられると、こういう理解でよろしかったでしょうか。</p> <p>そうしますと、本協議会の責任も非常に大きいものですので、改めて確認を含めて、いかがでしょうか。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>児童発達支援センターについては、第3期障害児福祉計画の策定にあ</p>

たって、今まで、児童発達支援センターを各地域にということでしたけれども、いわゆる面的な整備で機能として、持つことで良いと明示されたので、この方向で東松山市が進んで行くというのは、全国に先駆けたもので、ほかにあまり取り組みがないけれども、チャレンジングで、これまでの流れを組んだものであって、評価をしております。ぜひこの方向で進めていただきたいというふうに思います。

また、「ともに育ち合う」を考える研修会についても、なかなか現場の先生や保育士さんたちは目の前の起きている事象の対応でいっぱいになってしまうことが多い。子どもの育ちは、個別性が高いので、そこばかりに目を向けてしまうと、今なんとかしないといけない、将来どうなってしまうのかという不安の中でプレッシャーを感じられてきゅうきゅうとした対応になってしまう。長い人生の中で、保育園・幼稚園・学校は人生の中で言えばたかだか18年。その中でやれることを十分やっていたら、あとは社会で受け止めていけばいいというふうに私も思います。この、りょうさんのように長い目でみて社会にバトンタッチしていく。今の学校生活や保育園、幼稚園の生活が楽しめるというようなことをこの東松山市でまた取り組んでいかれることを願って、この取り組みについても大変良いと感じました。

朝日会長

丹羽委員の発言にもありましたように、児童発達支援センターの機能として、面的な整備の中でやっていくという特徴は、そういう言葉では表現がなかったと思いますけれども、もしかすると東松山らしさという点でいうと、児童発達支援センター機能自体、非常にインクルーシブな観点の中で展開して、特別な場所で特別な義務を設けるというのではなくて、通常の機能が、しかしその目的のために改めて整理されて展開していくという点では、そういう表現にする必要ないかもしれませんが、私の受けとめとしては、まさに東松山のこれまでの経過を踏まえた展開かなというふうに思いました。

それでは3番目、医療福祉連携プロジェクトについて、こちらについてはいかがでしょうか。

今年度の目標で、そもそも受け皿が不足しているという、この分野に限らず、障害福祉サービスの重要な課題だと思いますけれども、そこに取り組むということで、実際にはプロジェクト会議を通して、新規の事業所として立ち上がったところとの連携みたいなものもありましたが、次年度に向けて、受け皿が不足しているという課題の取り組みの継続とあるのですが、連携プロジェクトで既存のところと連携し合って機能を高めていくことと、それから資源の開発みたいな整備というのはなかなか口で言うのは簡単で、実行は難しいかなという気もするのですが、こちらのプロジェクトとしての認識という点で、受け皿不足に対しては、どんな方向性で次年度に展開していくかみたいのところをもしご協議さ

<p>南澤リーダー</p>	<p>れているのであれば教えていただければと思います。</p> <p>受け皿が不足しているという、この課題については、二つあり、一つは元々このプロジェクトを立ち上げるときに、当初からやっぱり出てきた課題であったということが一つと、あともう一つはこの個別ケースモニタリングをしている中で、どうしてもこの地域で医療的ケアのある人を受け入れる事業所がある程度、特定されてきて、そこにどのぐらいの状態の医療的ケアの必要な人が通っているのかということもわかってきました。その中でおそらくこのままの同じペースで受け入れ続けていくということは難しいかもしれないということもわかってきました。</p> <p>ただ、それをいきなり他の事業所にも同じように医療的ケアの必要な方を受け入れてくださいという話は、マンパワーもそうですし、受け入れるのも難しいという中では、まずは今、受け入れている事業所、それからある程度の障害のある方を受け入れている事業所であれば可能性があるのではないかとということで、まずはどういう方が利用されていて、事業者の特徴はどうかということをお互い知ってもらおうということが、今年度の取組でした。次年度以降、最終的には集まった事業所がみんなレベルアップするような仕掛けが作れるとよいと思っているのですが、まずはお互い知り合って、外出の仕方であったり、余暇であったり、例えば防災という観点であったりとか次年度はテーマ別に個別会議を開きながら、複数年かけて、受け入れてくれる事業所が少しずつ増えていくというところを目指していきたいと思っています。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>受け皿というのが、ガチガチの重装備のものというよりは、受け皿に対する考え方も柔軟なままに、でもいろいろな可能性を話し合いや情報交換の中で高めていこうと、こういうような理解であることということを理解いたしました。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、地域生活支援拠点等連絡会議について、こちらについてはいかがでしょうか。</p>
<p>佐藤副会長</p>	<p>地域生活支援拠点等連絡会議それぞれの5つの機能の評価をされているのですけれども、①要支援者の事前把握及び体制というところで、名簿を作成してマッチングをされたということ伺いました。</p> <p>また今年度の目標の②として、要支援者の事前把握について名簿で管理できていない障害のある人や障害福祉サービスを利用していない障害のある人への支援と書かれています。</p> <p>そういった相談支援事業所でも把握しえない、サービスを利用していない方への支援について、どんなことが協議されたのかということについて教えていただきたいというのが一点。あともう一点が、③緊急時</p>

<p>事務局 (障害者福祉課 小松主査)</p>	<p>の受け入れ・対応というところで、登録事業所が 2 事業所増えている。新たな事業所を増やしていくということで 3 事業所に基幹相談支援センターと行政の方が説明に行かれたとありますが、その事業所増えたのは説明に伺った 3 事業者のうち、2 事業所が増えたのかというところについて伺いたいと思います。</p> <p>まず 1 点目、②番ですが、要支援者の事前把握について名簿で管理できていない障害のある人は、ここについては行動援護を利用されている方全員について、対象になり得るかどうかどうかというところの協議を進めたところがあります。障害福祉サービスを利用していない障害のある人への支援を協議するという部分につきましては、情報を持っているのは私ども障害者福祉課になりますので、障害者手帳を取得し、その後、福祉サービス等の利用が一年間、一切ない方につきまして、抽出をし、一件、一件電話等でヒアリング調査をさせていただきまして、困り事がないかどうか確認をさせていただきました。タイミングがこの年度末でしたので、まだ全件終了していないのですが、今のところ支援が必要だという方はいらっしゃいません。引き続き全員の方の状況を確認してまいりたいと思います。</p> <p>2 点目に質問をいただきました③の緊急受け入れ・対応に係る部分です。今年度中に事業所が増えましたが、この事業所については、令和 4 年度中に依頼をさせていただいた事業者が令和 5 年度に検討をした結果、登録いただいたということです。</p> <p>ですので、令和 5 年度にお願いに上がった 3 事業所につきましては、1 事業所から令和 6 年度以降の登録を今、申請をいただいたところで、残り 2 事業所はまだ検討中ということになっておりますので、依頼した年度と登録する年度は若干ずれております。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>説明の中で施設入所支援を利用されている方の地域移行ニーズを全員確認したという話があったと思うのですが、これは令和 6 年度からスタートする第 7 期障害福祉計画で、本来であれば、国が全員について把握するようにと示したものを先駆けて取り組んだということで、これは大変高く評価できる取り組みではないかと感じております。また強度行動障害の人たちの支援ニーズの把握というのも、国が示しているものに先駆けて取り組んでいこうとされていて、ただ、まだ始まっていないということがあって、どんなことを把握するのかということは、今後、国の方から示される部分があると思うので、ぜひ参考にしながら、東松山市として必要な情報も把握するというところで努めていただきたいと思います。あとは地域生活支援の登録事業所を増やすために範囲を拡大するというお話がありましたけれども、これも今年度、障害福祉サービスの報酬改定があつて令和 9 年からは、通所事業所も地域生活支援拠点の緊急</p>

時対応の登録事業所に対象となると示されているところなので、サービス種別を増やして、登録事業所を増やすということも検討していただくと良いのかなというふうに思います。最後に、地域移行についてのニーズ把握をされたということでしたけれども、今回の法改正で、地域移行・地域定着支援については今まで基幹相談支援センターに役割がついていたものが、地域生活支援拠点の方につき直したというか、新たにそちら側になるというふうに示されました。

拠点コーディネーターという位置づけが、報酬上の評価をされることになっておりますし、東松山市の第7次障害福祉計画の案でも、このコーディネーター配置というのは、数値目標に入れられていますので、ぜひこの拠点連絡会議の中でコーディネーターの配置について、しっかりと検討をして、なるべく早期にそのコーディネーターが配置されるようにしていただきたいというふうに思います。合わせて、埼玉県内でも拠点の先進地として取り組まれている、宮代町、埼玉葛北地域では、これも報酬改定の中で施設入所支援の事業所の方に地域移行の担当者を配置しなさいということが示されて、埼玉葛北では担当者をナビゲーターというふうに位置づけてですね、この拠点の連絡会議と意見交換をしながら、地域移行に取り組むというようなことをしています。そういう先進事例も学びながら、また市内の施設入所支援の事業所も、報酬改定ということが求められてどうしたらいいのだろうということも出てくると思いますので、この拠点の連絡会議と一緒にそういった取り組みを支えられるように、アプローチを行い、意見交換をする場を持っていただけるとよいかと思いました。

朝日会長

地域生活支援拠点等連絡会議については、令和3年5月に事業開始になっているので、現在の障害福祉計画の最終年令和5年度の成果として当然評価されるものかと思っていて、本協議会では、例えば一定程度できていると書いてあるのに対して、十分できているかとか、いや、全くできていないのではないかと。全くできていないはないと思うのですが、全て一定程度できていると今日ご報告いただいたので、そのときの評価となるものが福祉計画策定の中での、令和5年度については固まってはいませんが、そういう観点からこの地域生活支援拠点等連絡会議の取組を最終的に評価するのか、この地域支援協議会を持って、評価を確認することでいいのか。そのあたりいかがでしょうか。この連絡会議だけ、評価が入っているのですが。

成川課長

地域生活支援拠点等連絡会議の評価につきましては、こちらの東松山市地域自立支援協議会で、最終的に、事務局の方で評価案を提案したものを承認いただければと思います。

<p>朝日会長</p>	<p>今後は、地域移行から自立へ向けての移行も、確認するという事ですので、具体的にはグループホームに移行した方も、そこにずっと留まるのではなくて、次のステップ、住まい方について、どういう意向があるのかというのをきちんとしていきたいということになるのかと思いました。今のところだけを切り出して、決を採るわけではないので、1番から5番を全部含めて、ご了解いただくというところで、先ほどの部分は委ねたいと思います。</p> <p>では5番目にいきます。SDGs／合理的配慮推進プロジェクトについてはいかがでしょうか。</p> <p>39ページで、平成28年4月から、障害者福祉課に意思疎通支援員が配置されているということでこれが合理的配慮の取組の一つだということをご報告いただいたところです。</p> <p>手話ができる意思疎通支援ということで、実際には、実状の中で、手話通訳が主なものなのか、手話通訳以外の聴覚障害者以外の方の意思疎通支援に関わる人が多いのか、このあたりはいかがでしょう。</p>
<p>成川課長</p>	<p>市で配置している意思疎通支援員につきましては、手話通訳以外の知的に障害のある方ですとか、そういう方の意思疎通支援を行うことになっております。</p> <p>ただ、実状を見ますと、やはり意思疎通支援員が実際に行っている意思疎通の多くは手話通訳の割合が多くなってございます。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>手話が言語であるということは明確化されていて、手話通訳は言語通訳もあります。</p> <p>それ以外の障害の特性で意思疎通が難しい方、これを分けるという意味ではないのですけれども、趣旨が違うところもあるので、例えば414件、実人員289人となったときに、手話通訳がどのぐらいのウエイトを占めていたのかとか、他の障害のところはどうだったのかについては分析をしていく上では必要だと思って発言をいたしました。</p>
<p>佐藤副会長</p>	<p>先ほど、報告の中で、今年度は合理的配慮の課題の抽出が行われていて、来年度はそういったこと等から評価をして具体的な方法を検討していきますということでありましたけれども、どんな課題が抽出されたのかというところを伺いたいと思います。</p>
<p>関リーダー</p>	<p>課題につきましてですが、当事者の方にも委員として参加をしていただいている、まずは意見を発信する場がないということですか、出かけるときに重要になってくるのが多目的トイレがあるのか、ユニバーサルシートも使えるのか、そういうところになります。まず、東松山市内にそういったものがどのくらい設置してあるかということも、数も少</p>

	<p>ないのですが、設置状況については県のホームページにも載っていますが、それが網羅されているのかを見直す、意見を発する場所がないというところで、参加者の方が主体的に参加をしてもらえらるワークショップのような形の講座をやってみようかという意見も出ております。</p>
朝日会長	<p>ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか、1番から5番まで順送りで、質疑応答させていただきました。</p>
	<p>1番から5番までの各プロジェクトのご報告を受けて、確認をさせていただいたということで、まとめさせていただきたいと思います。併せて、来年度以降の活動について具体的なお提案などもいただきましたので、ぜひ更なる活動の活性化を期待申し上げたいと思います。</p>
	<p>それでは次の議題（2）第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係る東松山市地域自立支援協議会の取組について事務局からご説明お願いいたします。</p>
事務局 (障害者福祉課 小松主査)	<p>— 第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係る東松山市地域自立支援協議会の取組について報告 —</p>
朝日会長	<p>第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の流れの中で、この地域協議会が設定しているプロジェクトや連絡会議と、クロスする中でこの計画を進捗させていただくということがイコール各連絡会議やプロジェクトの活動の指針になっているとことで理解をさせていただいたところでございます。特にニーズを当協議会で共有するということも明記していただいておりますので、随時取り組みについて、この場で共有して、進捗をぜひ皆さんと、見守っていきたく思ったところでございます。</p> <p>ほかにはないようでしたら、以上をもちまして、議事を終了して、議長の役割からおろさせていただきたいと思います。ご協力、誠にありがとうございました。事務局にお返しいたします。</p>
4 その他	<p>朝日会長ありがとうございました。続いて次第の6 その他でございますが、委員の皆様から何かございますか。</p>
事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)	<p>よろしいでしょうか。 それでは閉会にあたり、健康福祉部長の田嶋よりご挨拶申し上げます。</p>
田嶋部長	<p>— 挨拶 —</p>
事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)	<p>以上をもちまして、令和5年度第2回の東松山市地域自立支援協議会全体会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和6年 4月23日

署名委員 武田 耕典

署名委員 矢部 智之